

農業技術

プリズム

本県のバレイシヨの秋作栽培は、9月上旬を中心に植え付けを行います。近年の地球温暖化により植え付け時期の地温が上昇しています。当センターで育成した「さんじゅう丸」は、そうか病などに強く、高収量で外観も優れています。芋の水分率が高いために種芋が腐敗し、出芽率が低下することもあります。そこで、この対策として種芋の切断面の乾燥処理および地温を下げるかん水方法について検討しました。

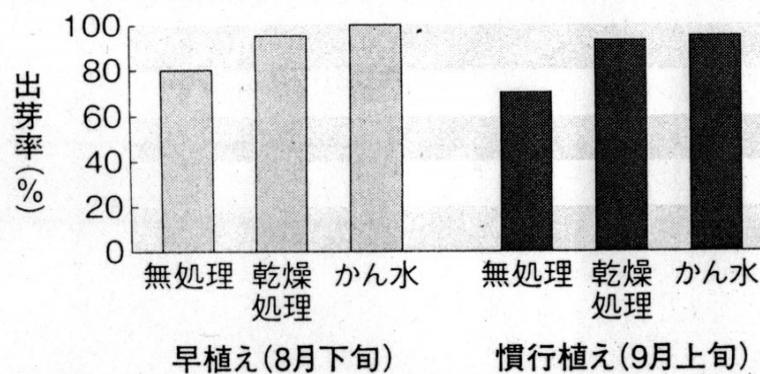
分とする資材を粉衣して植え付けると、無処理に比べて種芋の腐敗が減少し、出芽率が高くなりました。また、圃場（ほじょ

秋作バレイシヨ「さんじゅう丸」

種芋切断面に粉衣 腐敗防ぎ出芽向上

う)がPFI・7(通常降雨後3~4日たった状態)よりも乾いた日に1ヶ当たり2リットルかん水すると、無処理に比べて地温が

図 切断面処理とかん水の有無による出芽率の差



最大4度程度低くなり、種芋の腐敗が減少し、出芽率が高くなりました。より地温が高い8月下旬植え付けでも同様の結果が得られました(図)。

(県農林技術開発センター農産園芸研究部門馬鈴薯研究室主任 坂本悠)